

富山市立図書館

# 図書館だより

第63号  
2014.6

ただいま建設中！新図書館情報 vol.1

平成27年8月、図書館本館が生まれ変わります

キーワードは

## 知を深める図書館

西町の旧大和富山店跡地に建設中のビルをご覧になったことはありますか？5月13日現在、9階部分まで鉄骨が組み上げられ、だんだんと姿が見えてきました。このビルに、図書館本館を移転し、平成27年8月下旬に開館する予定です。

設計者には、昨年開場し話題となった歌舞伎座を手掛けた隈研吾氏が携わっています。地上10階、地下1階建ての建物には、図書館のほかに市ガラス美術館（仮称）と銀行が入り、カフェやイベントスペース（ロビー空間）なども備えています。

図書館エリアは、3階から6階の4フロアで構成され、3～5階が閲覧室、6階に事務室と書庫を配し、蔵書収容能力は約45万冊になる予定です。



図書室イメージ図

書架をはじめ、テーブルやイスなども建物にあわせてデザインされ、明るくモダンな雰囲気。



2015.8  
来夏オープン！

外観イメージ図 西町交差点から望む

外壁は、富山の重要な工業製品であるアルミとガラスを使用。キラキラと光を反射し、きらめく立山をイメージ。

図書館では「知を深める図書館」をキーワードに、図書館の資料や情報を通じて心豊かに暮らすことを基本コンセプトとして、誰もが使いやすく、心地良く滞在できる図書館を目指して準備を進めています。新図書館（本館）に関する情報は、この「図書館だより」のほか、ホームページでもお届けしていきますのであわせてご覧ください。

（本館 瀬口）

# 数字で見る図書館の一年

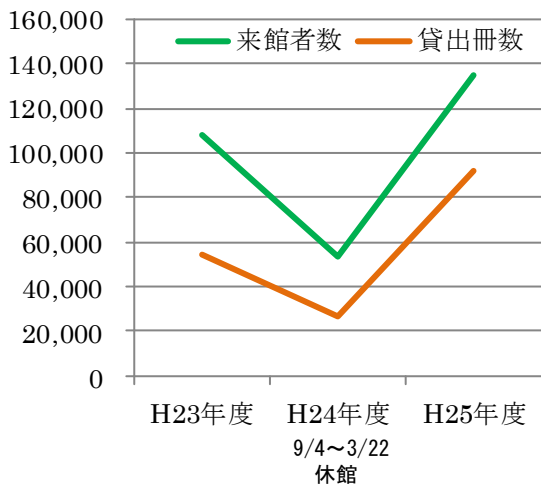
## 平成 25 年度図書館事業実施概要から

### (1) 開館日数と貸出冊数

個人貸出冊数 1,833,836 冊  
市民 1 人あたり 4.4 冊 (人口 419,607 人)  
一日平均貸出冊数 5,803 冊  
(平均開館日数 316 日)

平成 25 年度は、個人貸出冊数が 24 年度と比較して 24,160 冊増(前年比+1.3%)となりました。

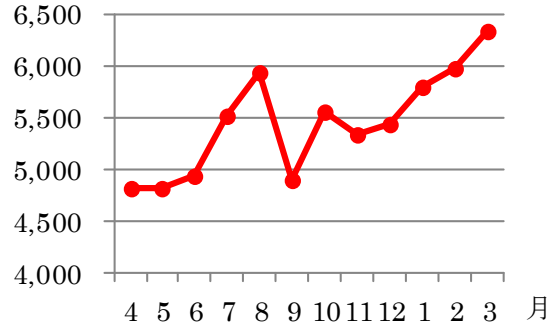
### 【とやま駅南図書館・こども図書館の利用】



◆25 年 3 月のこども図書館のオープンにより、とやま駅南図書館とこども図書館の利用が増加しました。25 年度は、来館者数は 135,102 人で、貸出冊数は 91,763 冊でした。多くの人の利用があったことが分かります。

◆10 月には、呉羽分館の月曜開館(試行)がスタートしました。4 月から 9 月までの貸出冊数は 30,908 冊(月平均 5,151 冊)でしたが、10 月から 3 月までの貸出冊数は 34,480 冊(月平均 5,747 冊)でした。

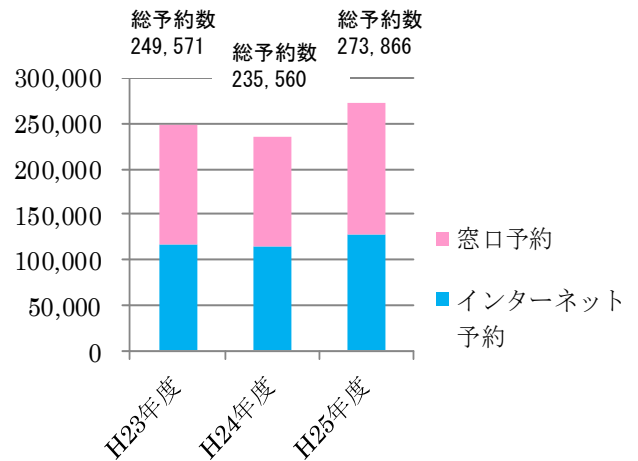
### 【呉羽分館の貸出冊数の推移】



### (2) 予約の件数

平成 25 年の予約件数は全体で 273,866 件でした。そのうち、インターネットでの予約件数は 128,400 件でした。

### 【インターネット予約割合の推移】



### (3) 利用カードの更新

平成 26 年 4 月から、利用カードの更新(リライトカードへの切り替え)をしています。カードの表面に書名、返却日が印字されるようになりました。

(本館 尾屋)

※「みんなに本を地域に図書館を 図書館事業実施概要」は、当館ホームページの「運営情報・方針」で公開しています。また、本館参考図書室にも冊子版を所蔵しています。

## 若い力が活躍！富山ゆかりの文芸

富山を題材とした作品や、富山に縁の深い作家は、数多くあります。富山に住む私たちには親近感がわくものですが、今回は、富山にゆかりのある若手の作家の作品をご紹介します。



『ここは退屈迎えに来て』

山内 マリコ／著

幻冬舎 2012

この作品には、富山を思わせる地方都市で生きる8人の女性が登場します。たとえば、第一話の主人公は都会からUターンしてきた三十歳。彼女を乗せた車が走るのには、両脇にチェーン店が建ち並ぶ幹線道路です。ここで描かれる地方都市の光景はリアリティがありながら、どこか空虚な感じを醸します。彼女たちはその中で、「ここではないどこか」を、現状とは違う自分を求め、それぞれに奔走します。

作者の山内マリコ氏は1980年富山県生まれで、同世代の私は、まるで自分や友達のことが描かれているように感じました。「地方都市の現状やその空気に馴染めない若者の姿を書こうと思った」<sup>※1</sup>という作者の言葉にあるように、現代の若者の心情を見事に掬い取っています。

山内氏は『まちのカケラ』（中央通商店街振興組合2014）に「脳内《総曲輪～中央通り》散歩 in1990's」と題したコラムを寄せています。往時の中心商店街の様子が鮮やかに描かれていて、ひきこまれます。「地元を離れて何年経とうが、わたしが富山を愛しているのは、楽しかった街の思い出があるから」とあるように、富山の街への愛着が感じられます。

次に、富山市在住の歌人姉妹、松田梨子さん・わかさんとご両親の作品が収められた歌集をご紹介します。松田さん姉妹はこれまで全国的な短歌大会や新聞の歌壇等で入選を重ねてきました。



『たなかでさんぼ 歌集』

松田 わこ・梨子・徹・

由紀子／著

角川書店 2011

この歌集には、二つの章があります。「梨子・わかこの章」では、梨子さんが8歳、わかさんが5歳の頃からの短歌が収められ、日常の何気ない1コマが温かく可愛らしい言葉となって表されています。

「お父さん・お母さんの章」では、ご両親の、子育てに奮闘する中で季節のきらめきが、短歌となって書き留められています。

昨年、この歌集に続いて『リコピンがある 歌集』（松田 わこ・梨子・徹・由紀子／著 2013）が発表されました。姉妹の成長とともに詠われる短歌には、家族のアルバムをのぞくような楽しさがあるとともに、短い言葉のなかにたくさんの思いが喚起されて、ことばの力に感じ入ります。

さて、近年富山では、若い世代の文芸に関わる活動も活発になっています。富山市では、毎月1回、課題本を読了したメンバーが集まり、本を片手に語り合う「とやま月イチ読学部」<sup>※2</sup>が開催されています。若い世代が読書を通じて交流する出会いの場として、注目されています。

（大沢野図書館 水島）

※1 雑誌「Takt」（シーエーピー）2014年5月号掲載「インタビュー 作家 山内マリコさん」より

※2 「とやま月イチ読学部オフィシャルサイト」<http://www.toyama-tsukiichi-dokugakubu.jp/>

# レファレンスあれこれ

**Q.** 東京の銭湯経営者に、富山県出身の人が多いのはなぜか。

また、最近、東京の銭湯に、立山の絵が描かれるようになったのはどうしてか。

**A.** まず、「東京の銭湯経営者に、富山県出身の人が多いのはなぜか」という点について調査しました。

『富山県史 通史編5 近代 上』（富山県 1981）を見てみると、「富山県の人口の推移」の項目に、明治期の出稼ぎについて記載されていました。行き先別・職種別の欄には、「東京一商業等各種職業」とありますが、銭湯などの詳細な職種までは記述がありません。『富山市史 通史 下巻』（富山市 1987）にも、該当するものは見当たりませんでした。

そこで、銭湯をテーマにした資料を見てみました。『銭湯』（日本放送出版協会 2009）、『入浴・銭湯の歴史』（雄山閣 1994）を調べましたが、経営者の出身地に言及してある部分はありませんでした。『銭湯の謎』（扶桑社 2001）を見てみると、「銭湯と北陸の知られざる関係」のページに、「東京の銭湯の初代経営者の7、8割は北陸3県の出身者であることがわかった。」と書かれています。北陸は出稼ぎが多かったこと、のれん分けの際には身内を郷里から呼び寄せたためではないかと、著者は推察しています。

また、商業関係の資料として、「商工とやま」（富山商工会議所）のバックナンバーを調査しました。平成18年12月号に、銭湯についての特集記事があり、「東京に富山出身の銭湯経営者が多い理由」というコラムが掲載されています。家督が継げない次男や三男にとって、一旗揚げるために、銭湯は最適の仕事だったのかもしれない、と記載され

ていました。

次に、「最近、東京の銭湯に立山の絵が描かれるようになったのはどうしてか」という点について調査しました。

最近の出来事であることから、新聞記事に記載がないかと考えました。富山県立図書館のホームページにある「県内新聞雑誌記事見出し検索」で、「銭湯」というキーワードから検索を行います。その結果、北日本新聞の平成22年2月23日、7月8日、23年8月13日に、「東京都内の銭湯の背景画に立山が描かれている」ことが分かりました。

実際の新聞記事を見てみると、富山市物産振興会が富山市の助成を受け、「ホットして富山市PR事業」を行っていることが説明されています。これは、平成22年度から始まった事業で、富山市の魅力をアピールするため、湯船の背景に立山連邦や富山ライトレールを描いたものです。銭湯の背景画といえば、富士山が一般的ですが、首都圏において、富山ブランドや平成27年春に開業する北陸新幹線を広く知ってもらおうという狙いがあるようです。

富山市のホームページから、「広報とやま」のバックナンバーを検索すると、平成23年1月5日号にも同様の記事がありました。

富山市物産振興会のホームページでは、雄大な背景画の写真を見ることができます。また22～24年度に背景画が描かれた、15ヶ所の銭湯の一覧も掲載されています。

（本館 清川）